

## 序曲

かすかな気泡を温めて  
海の呼吸が砂を撫でる

朝が昼に変わろうとする時

君が掌に包み込もうとするものを  
揺らぐような、かすかな波が届けようとする

レースのような陽光が  
瞬くような光の粒に変わる時

短く切りそろえた髪が揺れるたびに  
風ともいえぬかすかな大気の揺らぎが伝わる

また今日が滑り出そうとしている  
その序曲を君は歌っている

(2004.8.21)